

もし、原子力災害が起きたら

退避や避難の指示が出たら

原子力災害とは、原子力施設から放射性物質が漏れ、周辺に被害が生じることをいいます。放射性物質とは放射線を出す物質のことで、放射線を出す能力を放射能といいます。

原子力災害の程度は人間が感じ取ることができないため、放射性物質に関する基本的な知識と正しい対処法を身につけることが重要です。

■正確な情報を入手してください

原子力施設で事故等が発生した場合、自治体などはテレビ・ラジオなどの報道機関を通して、住民に必要な情報をすみやかに知らせます。

情報収集のポイント

- 防災行政無線や広報車などの情報に注意する



- テレビやラジオから正確な情報を入手する



- デマに惑わされないようにする



- 問い合わせのための電話は控える



- 自主防災組織で内容を確認する

■防護対策が必要になります

防護対策とは、放射線や放射性物質が大量に放出された際に、周辺住民などの被ばくをできるだけ低減するために講じられる措置です。

住民が受けると予想される線量が一定の指標を超えるような場合に、数時間以内に「屋内退避」や「避難」といった指示や、一定期間のうちに当該地域から離れる「一時移転」といった指示が出ます。



防災 チェックポイント 外部被ばく、内部被ばくから身を守る

外部被ばくから身を守るには…

- 距離による防護
できるだけ遠くに離れる
- 遮へいによる防護
コンクリートなどの建物の中に入り、放射線をさえぎる
- 時間による防護
放射線を受ける時間を短くする

内部被ばくから身を守るには…

- 吸引防止
マスクやハンカチで口をふさぐ
- 摂取防止
汚染された水や食べ物をとらない

屋内退避の場合

■屋内退避について

屋内退避は、住民等が比較的容易にとることができる対策です。放射性物質の吸引抑制や、中性子線及びガンマ線を遮へいすることにより、被ばく低減を図ります。屋内退避は、避難の指示等が国などから行われるまで放射線被ばくのリスクを減らしながら待機する場合には行います。また、避難や一時移転の実施が難しい場合に、国及び地方公共団体の指示によって行います。特に病院や介護施設では、避難するより屋内退避を優先することが必要な場合があります。その場合、一般的に遮へい効果や気密性が比較的高いコンクリートの建物への屋内退避が有効です。



避難および一時移転の場合

■避難および一時移転について

避難および一時移転は、いずれも住民等が一定量以上の被ばくを受ける可能性がある場合に実施される対策です。放射性物質や放射線の放出源から離れることにより、被ばく低減を図ることが目的です。このうち避難は、空間放射線量率等が高かったり、高くなるおそれがある地点から速やかに離れるため緊急で実施されます。また、一時移転は、緊急の避難が必要な場合と比べて空間放射線量率等は低い地域ではあるが、日常生活を続けた場合の無用な被ばくを低減するため、一定期間のうちに、その地域から離れるために実施されます。



■避難等の際に取るべき行動

避難の指示が出たら、まず指示の内容をよく確認し、あわてず落ち着いて行動してください。また、どこかの区域の人が対象か、一時集合場所はどこか、いつ集まるのかなどについて正しく情報を把握しましょう。



- テレビやラジオ、広報車や防災行政無線などで正確な情報を把握する



- 貴重品を持って、持ち物は最小限に抑え、帽子や上着、長ズボンを着用する(体表面の露出をできる限り少なくすることがポイント)



- 戸締まりを忘れずに。避難先や安否情報を書いたメモを家族で決めた場所に残す。



- 近所にも声をかけて、徒歩で一時集合場所に集まる



- ガスの元栓を閉め、電気器具のコンセントを抜く